

5月の予定

- 4日 どんたく西新
- 11日 とわ祭バザー・茶摘み
- 15日 室町ケミカル社員研修(～18日)
- 17日 脇山講演会(ティンさん)
- 18日 生松台バザー
- 25日 体験農園梅酵素作り

ご協力ありがとうございます！

【4月の寄付品】(敬称略)

RKB 青木周作、柿沼瑞穂、ひよどり精肉店、
(株)コイシ、(株)西日本通商、馬場雄治、基
山町役場、瓜生道明、森田章、ゾー

【4月の新入会】(敬称略)

〔法人〕

ブルーイノベーション株式会社、株式会社アー
チ電工

〔個人〕

小島健一、蒲生精一

体験農園だより

例年と同じく、4月は植付シーズン。今年度は体験農園のエリアを3アールほど拡大し、例年よりもゆとりのある畑にしました。またナスとトマトの支柱についても、試験的に例年とは違う形で設置しています。参加者の皆様にご利用いただきやすいような農園になるように試行錯誤していきたいと思っております。また、4月13、20日に行われたタケノコ堀では合わせて約30名の方が参加されました。またリピーターの方も数名いらっしゃいました。センターの裏山のタケノコは、今年はウラの年で、ここ数年では少ない年でしたが、皆様にご満足いただけるくらいには収穫できたようです。来年はまたオモテになることを祈っています☺ (飯川)



日本語の様子 ②

4月から本研修に入り、日本語は1週間に1回午後のみになりました。午前の農業実習の疲れも見えたりしますが、実習中に他のスタッフが使う日本語について質問があったり、日本語を学ぶ姿勢はみんな意欲的です。教室で学んだ日本語と実習現場で使う日本語が一致するととても嬉しそうです。ですが、先日はちょっとした違いで大笑いしました。

教科書 → カレーと定食とどちらがはやくできますか。

研修生の頭の中 → カレーと定植(苗を畑に植えること)とどちらがはやくできますか

「定食」とという言葉が知らなかったのが、農業実習でよく使う定植だと思ったようです。今後も、実習現場や地域の人との交流を意識して日本語を指導していきたいと思っております。入所式では、日本語で発表ができました。これからも 頑張れ 研修生！(立石考子)



A クラス



B クラス



まるごと!西日本

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1
TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322
E-mail: oisca_ntc@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)

2024年5月号



日頃の様子を更新中!是非チェックお願いします!

【令和6年度 オイスカ海外研修生入所式】

4月27日(土)、朝方までの雨がおさまり、新年度の研修生を祝うように晴れ渡りました。令和6年度の海外研修生は11ヶ国1地域より日本での研修を望む13名を皆様にご紹介できました。当日は約100名のご来賓、支援者の皆様、役員の皆様がお越しいただき、研修生の顔をしっかりと見ていただきました。研修生より代表挨拶としてインドネシア研修生のクラウディアさんがスピーチを行い、まだ2ヶ月少々の日本語にも関わらず立派なスピーチでこれからの研修に対する抱負をご紹介しました。来年の3月に帰国するまでにもっと成長することでしょう。今後とも皆様のご支援、サポートをよろしくお願い致します。日本を大好きになってもらいましょう。(廣瀬)



西日本支部第26回運営委員会

4月15日(月)オイスカ西日本支部運営委員会が九州電力で開催されました。運営委員会には九州電力様はじめ運営委員企業9社より出席をいただき、令和5年度事業、収支決算報告及び令和6年度事業計画、予算をご審議していただきました。令和6年度は海外研修生13名の入所で、これから約10ヶ月間の環境保全型農業者育成コースに沿って研修を行ってまいります。今年度も西日本支部ネットワークを更に広げ、クラウドファンディング農産物宅配事業等の更なる充実に向け、認知度をアップして取り組みを展開してまいります。運営委員会の皆様には日頃より特別なご支援をいただき、本委員会の議事をもとに、令和6年度西日本支部幹事会を開催させていただくこととなります。運営委員の皆様ご審議をいただきありがとうございました。(満川)



2024 防災訓練実施

4月19日(金) 令和6年度、西日本研修センター防災訓練を実施しました。初めに防災ビデオを視聴して災害発生時の心得について学び、実地訓練では館内に非常ベルが流れ、素早く避難行動に移し煙を避けるよう低い姿勢で屋外に緊急避難して人員確認をしました。また消火器の放水訓練を中心に手順を学ぶなど災害時に備え、防災意識を高める絶好の機会になりました。会員の寿防災メンテナンス株式会社の皆様ご指導ありがとうございました。(満川)



OB 研修生紹介コーナー

今回紹介するOB 研修生は、みなさんおなじみのパプアニューギニアのリーさんです。

リーさんは、有機農業の勉強だけでなく、脇山公民館のサークルで居合の勉強をして熱心に地域の方とも交流を深めていました。リーさんは今何をしているのでしょうか。

Q：リーさんは国に帰ってから今まで何をしてきましたか？

オイスカパプアニューギニアにかえって今まで、オイスカセンターの Management をサポートして、さかなのようしょくのぎじゅつを研修生に教えながら、3月から4月までパプアニューギニアの大学でさかなのようしょくのべんきょうをしていました。

Q：日本での思い出は？

日本でのいちばんおもいでは日本人のやさしいことと、はるにさく、さくらのうつくしさや、ふゆのうつくしいゆきです。

Q：すきなりょうりは？

すきな日本のりょうりは、うどんとさしみです。

Q：これからのプランは？

オイスカパプアニューギニアセンターでさかなのようしょくのぎじゅつを、研修生におしえることと、ようしょくいけをつくりたいです。

オイスカメンバーの皆さんにひとことお願いします

いつも、わたしたちをサポートしてくれてありがとうございます。そして、みなさまのサポートは、パプアニューギニアのわたしの地域の発展にとってもやくだっています。いつもからだに気をつけて元気でいてくださいね！

とても、がんばりやのリーさん！ これからの益々の活躍を期待しています！



《就任のご挨拶》

4月15日付けで西日本研修センターのSTAFFとして就任しました浦上千英子と申します。熊本県(宇土市)から来ました。オイスカに来て時々、当たり前のようにモンゴル人に間違われますが、純日本人です！前職は半導体製造に関わっていて、全てのことが今までの日常とは180度違う真逆の毎日です。まだ土地感覚も掴めずにいますが、一日でも早くと馴染みたいと思いますので、皆様、これから、どうぞよろしくお願い致します。



《退職のご挨拶》

西日本研修センターで6年間スタッフをさせていただいておりました園田です。

今年の4月末に退職いたしました。センターで様々な業務に携わらせていただき、研修生と関わる日々は毎日新たな発見がありました。会員様をはじめ地域の方々、ボランティアの方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました😊



農場の研修風景

4月に入ってから、オイスカ西日本研修センターでは本格的にタケノコ掘りがはじまります。

センター敷地の奥に20aほどの竹林があり、約1か月間のあいだ1日おきに収穫作業を行います。センターの竹林が裏作で収穫量が少なくなるときは、オイスカの会員さんで石釜に竹林を持っている方がいて、その方からのご厚意で収穫をさせていただきます。この竹林がなかなかの急こう配で、毎回滑りながら収穫作業を行います。オイスカの農場では野菜の収穫が少なく、各スーパーに出荷することが難しいこの時期には、加工したタケノコは非常に有難い販売物になるのです。センターの竹林は、今年、裏作の年で収穫量は少ない状況でしたが、石釜の竹林は表の年で、たくさん収穫をさせていただきました。加工したタケノコはお店で買うと結構な値段がしますが、苦勞して収穫作業を行い、そのタケノコの皮をむいて湯がいてから洗って仕上げるという、ものすごい手間がかかるのです。皆さんもタケノコ農家さんの苦勞をちょっと考えながら、旬の味覚を味わってください。(豊田)



会員様のご紹介(オイスカ佐賀県推進協議会:坂田艶子 様)

今回紹介する会員さまは、オイスカ佐賀県推進協議会で長年積極的にご支援いただいている坂田艶子様です。坂田様は佐賀の中では知らない人がいないぐらい有名な方で、オイスカ以外にも婦人会の会長や高齢者サロンこども食堂の運営など様々な活動を手掛けているパワフルなお母さんです。

Q：オイスカへの入会のきっかけは？

私は、昭和63年までスーパーマーケットを経営していて、平成元年のお盆でお店を辞めました。

その時に、友達の飯盛さん(オイスカ会員)から誘われて、フィリピンのネグロス島で活動している渡辺先生のところで、幼稚園の建設の支援に参加しました。その当方で4件の幼稚園を建てましたよ。

Q:今までのオイスカ支援の活動について紹介してください？

平成2年に友達と一緒に「コスモスの会」を立ち上げました。ちょうどその頃、飯盛さんからの紹介で、これはオイスカではないけど、タイで孤児院を開いて子ども達の支援をしている施設を見学しに行きました。その時に、孤児院で民芸品を作る活動をしていたのですが、この民芸品を購入して、それを佐賀で販売して利益の一部をネグロスの幼稚園建設のために充てる活動を行うことが決まりました。その支援金で先ほどお話しした通り4件の幼稚園を建設できました。その後、タイへ支援先を移し、図書館や学校の施設建設のための支援を長く行いました。タイでの活動を進めるときには、オイスカのOBであるソンプンさんやアルンさんが本当によくしてくれて、そのおかげで活動を楽しく続けられることが出来ました。民芸品の買い付けは平成29年まで続きました。それと、タイの子どもを3人里親で支援をしました。その子ども達も大学を卒業しました。

Q:これからやりたいことなどはありますか？

もう1回タイへ行きたいですね。

Q：これからのオイスカに期待することは？

オイスカはどこで何をしているのかよくわからないので、もっとアピールをしなければいけないと思う。私が関わっていたソロプチミストの活動では、奨学金を出す活動をしていて、その活動が世界的に認められ高い評価を受けたのですが、目に見える活動をする支援する方も増えるので、もっと多くの人の眼にふれるようにアピールしてください。



長年にわたりオイスカの活動を支援していただいた坂田様、これからも益々お元気でオイスカの活動を見守ってください。